

福島第一原子力発電所

廃炉・汚染水対策に関する取り組みについて ～情報発信・コミュニケーション～

2019年1月10日

東京電力ホールディングス株式会社

目次

1. 廃炉・汚染水対策に関する情報発信・コミュニケーションについて
2. 教育界とのコミュニケーション ～ご視察を通じた次世代への理解活動～
3. 東京電力廃炉資料館の開館

【参考】風評への対応 ～「発見！ふくしま」キャンペーンの実施

1. 廃炉・汚染水対策に関する情報発信・コミュニケーションについて

地域の皆さま、広く社会の皆さまに、廃炉の進捗・汚染水対策の状況をわかりやすくお伝えるため、以下の取り組みを実施。

- 国内・海外のマスメディアを、福島第一原子力発電所へご案内し、当社経営層や協力企業作業員へのインタビューの企画を設けた取材対応を行った。
- 当社ホームページ「廃炉プロジェクト」について、知りたい情報に簡単にたどりつくことができるよう、情報の配置や導線を見直し、デザインもリニューアル。（2018年8月）
- また、ウェブコンテンツ「廃炉の現場をめぐるバーチャルツアー」について、多くの方々にご覧頂けるよう、スマートフォンからも閲覧できるよう対応するとともに英語版も開設。（2018年11月）
- なお、ソーシャルメディア（フェイスブックやユーチューブなど）を活用し、国内・海外に広く情報を発信。



リニューアルしたホームページ
「廃炉プロジェクト」



英語版「廃炉の現場をめぐるバーチャルツアー」

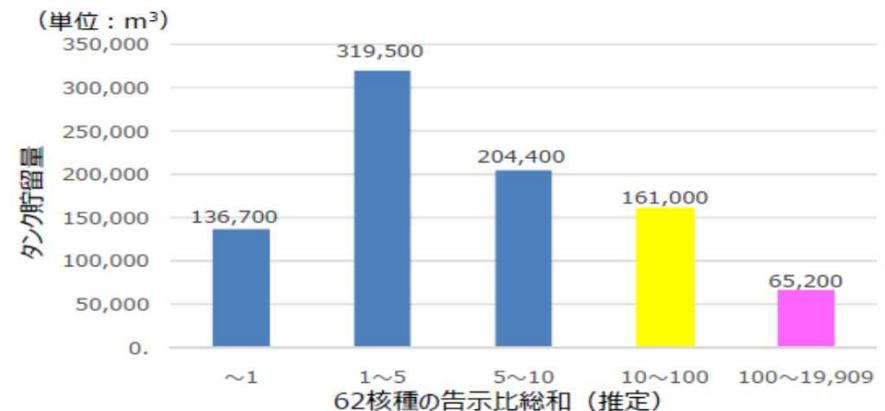
1. 廃炉・汚染水対策に関する情報発信・コミュニケーションについて

多核種除去設備の運用方針や処理水の性状に関する情報発信について

- 多核種除去設備は、廃炉の過程で発生する汚染水を貯留する際のリスクや線量を早期に低減するため、放射性物質等による敷地境界での追加的な実効線量（1 mSv/年）に影響を与えない範囲で、告示濃度限度にとらわれずに運転している。
- 上記の運用方針は中長期ロードマップでお示するとともに、多核種除去設備で処理した水の放射性物質のデータについては、当社ホームページで随時、公開をしてきた。
- しかしながら、汚染水処理の課題やこれを踏まえた設備運用の方針を体系的に説明することや公開している処理水のデータをグラフに加工するなどして性状をわかりやすくお示すること等の配慮がこれまで足りていなかったことは反省点。県民の皆さま、国民の皆さまのご関心を踏まえて、これまで以上に丁寧に、わかりやすく情報発信していくことが重要。

Sr-90_結果	Sr-90_単位	Cs-134_結果	Cs-134_単	Cs-137_結果	Cs-137_単	I-129_結果	I-129_単
748 Bq/cm ³		0.129 Bq/cm ³		1.223 Bq/cm ³		0.01759 Bq/cm ³	
<0.00003599 Bq/cm ³		<0.00009855 Bq/cm ³		<0.00006232 Bq/cm ³		0.002117 Bq/cm ³	
0.0001116 Bq/cm ³		<0.0001394 Bq/cm ³		<0.00006577 Bq/cm ³		0.0122 Bq/cm ³	
<0.00003680 Bq/cm ³		<0.0001032 Bq/cm ³		<0.00006325 Bq/cm ³		0.001332 Bq/cm ³	
<0.00004317 Bq/cm ³		<0.00008931 Bq/cm ³		0.00009715 Bq/cm ³		0.000683 Bq/cm ³	

Sb-125_結	Sb-125_単	Mn-54_結	Mn-54_単	Co-60_結	Co-60_単	Cd-113m_結	Cd-113m_単
0.9215 Bq/cm ³		<0.01597 Bq/cm ³		0.05389 Bq/cm ³		<0.0001709 Bq/cm ³	
0.00026 Bq/cm ³		<0.000053 Bq/cm ³		0.000364 Bq/cm ³		<0.0001014 Bq/cm ³	
0.000455 Bq/cm ³		<0.000063 Bq/cm ³		0.001029 Bq/cm ³		<0.00008606 Bq/cm ³	
0.000347 Bq/cm ³		<0.000053 Bq/cm ³		0.000415 Bq/cm ³		<0.00009462 Bq/cm ³	
0.000324 Bq/cm ³		<0.000049 Bq/cm ³		0.000144 Bq/cm ³		<0.0000961 Bq/cm ³	



- 設備運用開始初期の処理水等
- クロスフローフィルタの透過水※、放射能濃度の高いSr処理水の残水にALPS処理水が混合された水

※2013年度に発生した既設ALPSのクロスフローフィルタの不具合により炭酸塩沈殿処理のスラリーが設備出口に透過した事象

ホームページで公開している多核種除去設備等処理水の放射性物質のデータ (一部：イメージ)

多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会 (第10回) (2018年10月1日) 資料3

1. 廃炉・汚染水対策に関する情報発信・コミュニケーションについて

「処理水ポータルサイト」の開設について（2018年12月10日～）

- 「処理水」に関する情報を、広く社会の皆さまに、より丁寧に、わかりやすくお届けできるよう、12月10日に当社ホームページ内に「処理水ポータルサイト」を開設。
- ポータルサイトでは、これまで当社ホームページに掲載してきた「処理水」の分析結果、国の委員会等で説明した内容を整理し、構内タンクでの処理水の貯蔵状況や性状、ならびに汚染水処理の経緯などを図やグラフ、用語解説を交えて解説。
- 今後、皆さまの疑問やご不安にしっかりとお応えできるポータルサイトをめざし、随時、内容の拡充・改善をはかっていく。当社は、今後も積極的に情報公開を行い、廃炉作業の進捗をわかりやすくお伝えしていく。2019年1月には英語版を公開予定。



「処理水ポータルサイト」



ポータルサイトイメージ
「処理水の貯蔵量」

2. 教育界とのコミュニケーション ～ご視察を通じた次世代への理解活動～

- 教育界関係者（教員、大学生など）のご視察は年々増加。
→実績(2016、2017年度)：教育団体・教員・大学生等、74件・1,386名
2018年度は12月末迄：31件・650名
- 増加する高校生等の視察ニーズに対し積極的な受入開始。
(保護者ならびに学校長の承諾のもと実施)
→実績(2016、2017年度)：県内の高校生及び高専生等、4件・37名
2018年度は12月末迄：12件・84名
→意見交換会では復興の取り組みや今後のエネルギーのあり方等、活発な質疑が行われ問題意識や意欲の高さが伺えた。
- 今後も教育界と連携を強化し、次世代層の視察受け入れを継続。



ご視察概要

- 1～4号機外観や凍土遮水壁設備など、視察標準ルートをバス車中より、約50分間にわたり視察
- 併せて、意見交換を実施

＜視察者の主な感想＞

- 実際に見聞することで事故の過酷さや廃炉作業の大変さを実感でき、貴重な機会であった。
- 復興の取り組みは地域事情に応じた対応が必要であると理解した。復興にあたって自分に何ができるかを考え、具体的に行動していきたい。



3. 東京電力廃炉資料館の開館

- 発電所周辺地域をはじめとした福島県の皆さま、そして国内外の多くの皆さまが、福島原子力事故の事実と廃炉事業の現状等をご確認いただける場として「東京電力廃炉資料館」を2018年11月30日に開館。
- 館内は映像や模型、パネル展示などで原子力事故の経過や廃炉事業の進捗を紹介しているほか放射線や地域情報を紹介する情報スペースも設置。
- 福島第一原子力発電所視察者も含め、福島県内外のみなさまが来館。
【来館実績：約3,300名（2018年12月28日まで）】
- 来館された皆さまのご意見を踏まえ、説明方法や展示内容について適宜、改善・充実を図る。

<来館者の主な意見>

- ・子供たちやお年寄りが廃炉の状況などを知る場になると思う。
- ・事故の事実と廃炉だけで終わるのではなく、未来を考える前向きなメッセージも発信してほしい。
- ・原子炉格納容器内部の実際の映像はなく、物足りなさも感じた。
- ・廃炉資料館を一つの地域の拠点として、その他周辺施設との連携を図っていく必要がある。



【参考】風評への対応 ～「発見！ふくしま」キャンペーンの実施～

- 福島県産品の認知度向上と取扱店舗拡大を目的としてキャンペーンを実施中(9月～2月)。首都圏の小売店や飲食店での販売促進フェアを通じて、定番化の取り扱いを目指す。
- また、雑誌等のメディアを活用した情報発信を実施するとともに、LINEを活用した福島ファンのネットワーク構築も実施。
- これらの活動に加え、ふくしま応援企業ネットワーク他との共催イベント「ふくしままつり」を実施し、開催会場における過去最大の集客数を記録。多くの商品を完売した。

◆キャンペーン実績

2018年12月末時点

対象		販売イベント 飲食フェア実施数	定番化数※
小売店	米	6社17店舗	4社7店舗
	牛肉	2社4店舗	—
飲食店	牛肉	4社42店舗	2社15店舗
	その他		
マルシェ		51箇所	—

※1ヶ月以上の常設棚販売を定番化と定義



小売店での販売イベント風景(上)
LINEを活用した情報発信(右)



◆ふくしままつり実績

日時：11月10日(土)～11日(日)10:00～16:00

場所：御徒町南口駅前広場（パンダ広場）

実績：来場者約1.4万人（2日間）

内容：野菜、果物、加工品、酒など約60品目の販売や、福島牛串焼きなど約10種類のフードコート隣接する松坂屋上野店様とも連携し、米、野菜、肉類など約20品目販売



イベント会場(左)ならびに松坂屋上野店での販売風景(右)